

上峰町文化財調査報告書第32集

# 上峰町内遺跡確認調査 I

上峰町内における開発行為に伴う

埋蔵文化財確認調査報告書

—平成元年度～平成5年度—

2010年3月

上峰町教育委員会





# 上峰町内遺跡確認調査 I

上峰町内における開発行為に伴う  
埋蔵文化財確認調査報告書  
—平成元年度～平成5年度—



2010年3月

上峰町教育委員会



## 序

從来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農耕併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この20年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成22年3月

上峰町教育委員会

教育長 吉田 茂

## 例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡査定文化財確認調査のうち平成元年度から平成5年度に実施した埋蔵文化財確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成21年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版作成作業などは、調査員の指示により、製図作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、原田大介が行った。
10. 本報告書に係る確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

## 凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、広くは遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、各年度調査位置図・各年度実施確認調査一覧表・各年度の報文中の調査番号は一致する。  
例) 平成元年度に2番目に実施した○○遺跡確認調査 H1-2 ○○遺跡
3. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
4. 上峰町は、平成元年11月1日、町制を施行した。本来ならば、「上峰村」と表記すべき部分についても、本書では「上峰町」で統一し表記している。
5. ここ数年来の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっているが、本書では、一部を除き、旧来の名称を使用している。
6. 「調査後の指摘」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。

## 調査組織

平成元年度～平成3年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局	総括	松田 末治	上峰町教育委員会	教育長
事務主任	浜田 小夜子	タ	教育課長	(～平成2年1月14日)
馬場 英孝	タ	タ	(平成2年1月15日～)	
経費執行	吉田 忠	タ	社会教育係長	
原田 大介	タ	タ	社会教育係員	
鶴田 浩二	タ	タ		
調査組織 調査員	原田 大介	タ	社会教育係員	
鶴田 浩二	タ	タ		
調査指導	佐賀県教育委員会			

平成4年度～平成5年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局	総括	松田 末治	上峰町教育委員会	教育長 (～平成4年10月19日)
事務主任	野口 國雄	タ	タ	(平成4年10月20日～)
馬場 英孝	タ	タ	教育課長	
経費執行	吉田 忠	タ	社会教育係長	
原田 大介	タ	タ	社会教育係員	
鶴田 浩二	タ	タ		
調査組織 調査員	原田 大介	タ	社会教育係員	
鶴田 浩二	タ	タ		
調査指導	佐賀県教育委員会			

## 整理作業参加者

江崎愛子、島美保子（平成21年度 整理作業員）

# 目 次

序

例言・凡例

調査組織・整理作業参加者

I. 上峰町の位置と環境	1
1. 上峰町の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の方法	6
III. 平成元年度の調査	9
H1-1 切通遺跡	12
H1-2 周知外 屋形原地区	13
IV. 平成2年度の調査	15
H2-1 三上遺跡	18
H2-2 外記遺跡	19
H2-3 坊所二本谷遺跡	20
H2-4 周知外 上来多地区	21
V. 平成3年度の調査	23
H3-1 江迎城跡	26
H3-2 坊所一本谷遺跡	27
H3-3 坊所城跡	28
H3-4 屋形原古墳群	29
H3-5 三上遺跡	30
H3-6 新立古墳群	31
VI. 平成4年度の調査	33
H4-1 屋形原古墳群(1)	36
H4-2 三上遺跡(1)	37
H4-3 船石遺跡	38
H4-4 櫻寺遺跡(1)	39
H4-5 屋形原古墳群(2)	40

H4-6	米多城跡	41
H4-7	周知外(1) 上坊所地区	42
H4-8	四本谷遺跡	43
H4-9	三上遺跡(2)	44
H4-10	櫻寺遺跡(2)	45
H4-11	周知外(2) 上坊所地区	46
VII. 平成5年度の調査		47
H5-1	谷渡古墳群	51
H5-2	周知外(1) 屋形原地区	52
H5-3	三上遺跡	53
H5-4	坊所一本谷遺跡	54
H5-5	周知外(2) 下津毛地区	56
H5-6	周知外(3) 下坊所地区	57
H5-7	船石遺跡	58
H5-8	周知外(4) 下坊所地区	59

## 挿図目次

Fig. 1	上峰町町内遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2	上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3	平成元年度 確認調査位置図 (1/50,000)	11
4	切通遺跡 (1/5,000)	12
5	周知外 屋形原地区 (1/5,000)	13
6	平成2年度 確認調査位置図 (1/50,000)	17
7	三上遺跡 (1/5,000)	18
8	外記遺跡 (1/5,000)	19
9	坊所二本谷遺跡 (1/5,000)	20
10	周知外 上米多地区 (1/5,000)	21
11	平成3年度 確認調査位置図 (1/50,000)	25
12	江連城跡 (1/5,000)	26
13	坊所一本谷遺跡 (1/5,000)	27
14	坊所城跡 (1/5,000)	28
15	屋形原古墳群 (1/5,000)	29
16	三上遺跡 (1/5,000)	30
17	新立古墳群 (1/5,000)	31
18	平成4年度 確認調査位置図 (1/50,000)	35
19	屋形原古墳群(1) (1/5,000)	36

Fig. 20	三上遺跡(1) (1/5,000)	37
21	船石遺跡 (1/5,000)	38
22	櫻寺遺跡(1) (1/5,000)	39
23	屋形原古墳群(2) (1/5,000)	40
24	米多城跡 (1/5,000)	41
25	周知外(1) 上坊所地区 (1/5,000)	42
26	四本谷遺跡 (1/5,000)	43
27	三上遺跡(2) (1/5,000)	44
28	櫻寺遺跡(1) (1/5,000)	45
29	周知外(2) 上坊所地区 (1/5,000)	46
30	平成5年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	50
31	谷渡古墳群 (1/5,000)	51
32	周知外(1) 屋形原地区 (1/5,000)	52
33	三上遺跡 (1/5,000)	53
34	坊所一本谷遺跡 (1/5,000)	54
35	周知外(2) 下津毛地区 (1/5,000)	56
36	周知外(3) 下坊所地区 (1/5,000)	57
37	船石遺跡 (1/5,000)	58
38	周知外(4) 下坊所地区 (1/5,000)	59

## 表 目 次

Tab. 1	平成元年度 町内遺跡確認調査一覧表	10
2	平成2年度 町内遺跡確認調査一覧表	16
3	平成3年度 町内遺跡確認調査一覧表	24
4	平成4年度 町内遺跡確認調査一覧表	34
5	平成5年度 町内遺跡確認調査一覧表	48
報告書抄録		

## 図 版 目 次

PL. 1	切通遺跡 調査地遠景	12
2	周知外 屋形原地区 No6試掘溝	13
3	三上遺跡 調査地全景	18
4	外記遺跡 No1試掘溝	19
5	坊所二本谷遺跡 No3試掘溝	20
6	周知外 上米多地区 作業状況	21
7	江連城跡 遺構検出状況	26

PL. 8 坊所一本谷遺跡 遺構検出状況	27
9 坊所城跡 遺構検出状況	28
10 屋形原古墳群 作業状況	29
11 三上遺跡 作業状況	30
12 新立古墳群 調査地遠景	31
13 屋形原古墳群(1) 古墳開口部確認状況	36
14 三上遺跡(1) 作業状況	37
15 船石遺跡 遺構検出状況	38
16 櫻寺遺跡(1) 遺構検出状況	39
17 屋形原古墳群(2) 調査地全景	40
18 米多城跡 作業状況	41
19 周知外(1) 上坊所地区 作業状況	42
20 四本谷遺跡 No4試掘溝	43
21 三上遺跡(2) No1試掘溝	44
22 櫻寺遺跡(2) 作業状況	45
23 周知外(2) 上坊所地区 作業状況	46
24 谷渡古墳群 作業状況	51
25 周知外(1) 屋形原地区 No7試掘溝	52
26 三上遺跡 No18試掘溝	53
27 坊所一本谷遺跡 作業状況	55
28 坊所一本谷遺跡 遺構検出状況	55
29 周知外(2) 下津毛地区 作業状況	56
30 周知外(3) 下坊所地区 作業状況	57
31 船石遺跡 遺構検出状況	58
32 周知外(4) 下坊所地区 作業状況	59



# I. 上峰町の位置と環境

## 1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のはば中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のはば中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地区は郡境と呼称されている。

鳥栖市から佐賀郡大和町に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する洪積世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する洪積世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に洪積世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する洪積世丘陵地域を中心にして遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

## 2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から洪積世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡<sup>1)</sup>、約400基の壺棺墓が検出された中原町姫方遺跡<sup>2)</sup>、埋納された12本の矛を出土した北茂安町検見谷遺跡<sup>3)</sup>、壺棺墓から船載鏡を出土した神埼郡東脊振村三津永田遺跡<sup>4)</sup>、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼郡の神埼・三田川・東脊振の2町1村にまたがる吉野ヶ里遺跡<sup>5)</sup>など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ、弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域においても同様に、町の北部から中央部を占める洪積世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である<sup>6)</sup>。周辺地域では、神埼郡三田川町との境界に位置する二塚山丘陵の三田川町側からナイフ形石器の採取例が報告されている<sup>7)</sup>。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡下層における阿蘇4火碎流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている始良-Tn火山灰(AT)の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている<sup>8)</sup>。



Fig. 1 上峰町町内遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)

繩文時代になると、中原町香田遺跡<sup>9)</sup>や東脊振村戦場ヶ谷遺跡<sup>10)</sup>などが出現する。町内においても、これまでも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覺者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区<sup>11)</sup>、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査<sup>12)</sup>において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴國」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にある論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のはとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区的丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字坊所地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅劍や貝貝を出土した切通遺跡<sup>13)</sup>、神埼郡東脊振村、三田川町にまたがる、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い甕棺墓、土壙墓など約300基が調査され、舶載鏡、小型微製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡<sup>14)</sup>、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡<sup>15)</sup>、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡<sup>16)</sup>などが知られている。また、この度の県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡<sup>17)</sup>、船石南遺跡<sup>18)</sup>、八藤遺跡<sup>19)</sup>から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期には中原町船方原遺跡<sup>20)</sup>、上峰町五本谷遺跡<sup>21)</sup>などにおいて方形周溝墓が營まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀郡大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市飼塚古墳<sup>22)</sup>、中原町船方古墳<sup>23)</sup>、上峰町西南部から神埼郡三田川町にまたがる目達原古墳群<sup>24)</sup>、神埼郡神埼町伊勢塚古墳<sup>25)</sup>、佐賀市鏡子塚古墳<sup>26)</sup>、佐賀郡大和町船塚古墳<sup>27)</sup>など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保一鳥橋線が通る山麓部から丘陵部にまたがる一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡綾部・米多郷に属する当時の上峰町一帯は、「古事記」、「国造本紀」などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から神埼郡三田川町東部の目達原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓参考地「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古稻荷塚、稻荷塚などの前方後円墳はかかる目達原古墳群<sup>28)</sup>が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄劍、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳<sup>29)</sup>が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、神埼郡三田川町下中村遺跡<sup>30)</sup>、同郡東脊振村下石動遺跡<sup>31)</sup>などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なく今までに実態が明らかになっていないのが

現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、三田川町下中村遺跡、東脊振村辛上庵寺跡<sup>32)</sup>、靈仙寺跡<sup>33)</sup>などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡<sup>34)</sup>や塔の塚廃寺跡<sup>35)</sup>などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設=「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土塁の東方に接する八藤丘陵の調査において、土塁東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され<sup>36)</sup>、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の塚廃寺跡は、百済系卑弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡<sup>37)</sup>の調査などでまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前平田城跡、江迎城跡、一の橋環濠塗集落、加茂環濠塗集落などが知られていた<sup>38)</sup>。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している<sup>39)</sup>。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

## 註

- 1) 藤瀬慎博・石橋新次『袖北遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』鳥栖市文化財調査報告書第30集 鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・木本洋一『姫方遺跡』佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭『検見谷遺跡』北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金間丈夫・坪井清足・金闇恕『佐賀県三津永田遺跡』『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介『八藤遺跡Ⅲ』上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志『原始』『上峰村史』上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄『II. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』『佐賀平野の阿蘇4火葬流と埋没林』上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋『香田遺跡』『香田遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981

- 10) 七田忠志 「佐賀県戦場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡V』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八藤遺跡Ⅱ・堤土塁跡Ⅱ』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998  
前出 (6)
- 13) 金闇丈夫・金闇惣・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 『二塚山遺跡』『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 「一本谷遺跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡Ⅱ 図録編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988  
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡Ⅱ本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989  
原田大介 『船石遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990  
原田大介 『船石遺跡Ⅳ』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡Ⅰ』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002  
原田大介 『船石南遺跡Ⅱ』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八藤遺跡Ⅰ』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧也 「蛭原古墳跡」 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
- 21) 木下 巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 「刺塚前方後円墳」 烏栖市文化財調査報告書第22集 烏栖市教育委員会 1984  
23) 前出 (2)
- 24) 松尾楨作 「日達原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 「古代国家の形成」『佐賀県史』 佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『鏡子塚』 佐賀市教育委員会 1976
- 27) 松尾楨作 「佐賀県考古大観」 布德博物館 1959
- 28) 前出 (24)
- 29) 前出 (16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 「下中枕遺跡」 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 「下石動遺跡」「下石動遺跡」 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (6) 佐賀県文化財調査報告書第96集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾楨作 「東脊振村辛上廐寺跡の調査」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 「雲仙寺跡」 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・糸川一義 「堤土塁跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾楨作 「塔の坂庵寺址」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940  
36) 前出 (12)  
原田大介 『八藤遺跡Ⅲ』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 「中世」「上峰村史」 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

## II. 調査の概要

### 1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力について要請を行っている。

### 2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、 $10m \times 3m$ の試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に $10m$ のメッシュを組み、このメッシュに $10m \times 3m$ の試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定して、試掘溝の配置計画を作成している。この配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は重機応変な対応を探ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝掘削については、遺構検出までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。遺構などが検出された試掘溝については、適宜略測を行い、縮尺 $1/100$ 程度の平面図、 $1/20$ 程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラによる写真撮影を行い、作業終了後埋め戻しを行っている。

## 上峰町全図

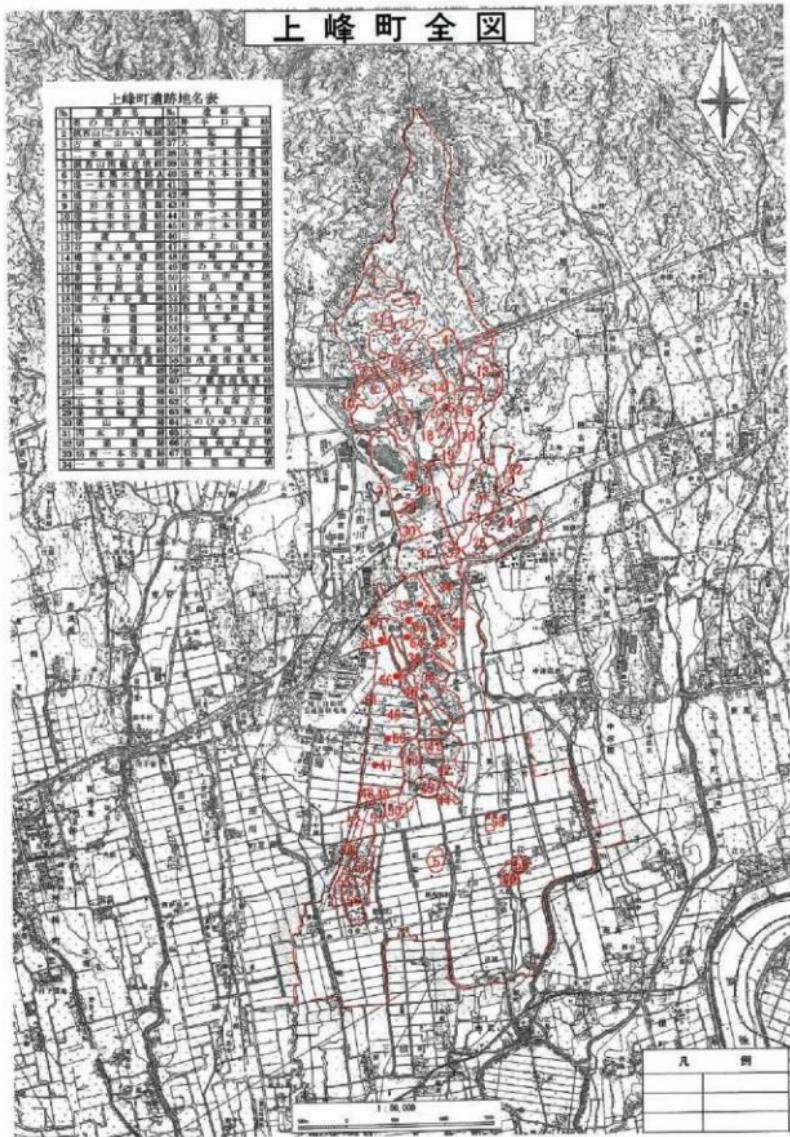


Fig. 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)



### III. 平成元年度の調査

Tab. 1 平成元年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	切通遺跡	上峰町大字塙字西本谷 1952番地1, 1929番地1, 1928番地1, 1927番地2, 1939番地1, 1936番地, 1932番地, 1933番地, 1934番地, 1935番地1, 1935番地2, 1935番地3, 1931番地・1938番地 合併	株式会社エスワンツール	工場建設	5,155	360	平成1年9月21日	遺構、遺物とともに検出されなかった。	工事実施。	
2	周知外 塙形原地区	上峰町大字塙字三本木 3829番地2	栗原工業株式会社	工場建設	4,928	570	平成2年3月下旬	遺構、遺物とともに検出されなかった。	工事実施。	



Fig. 3 平成元年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

## H1-1

遺跡名：切通遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：工場及び駐車場建設

工事面積：5,155m<sup>2</sup>

調査面積：360m<sup>2</sup>

調査時期：平成元年9月21日

立地と環境：切通遺跡は上峰町大字堤字四本谷

に所在し、二塚山丘陵南東部分に

位置する弥生時代の壺棺墓を主とした遺跡である。調査対象地区は

この二塚山丘陵内の長崎本線北側付近を谷頭とし切通川へ通じる谷底平野標高15m付近に位置しており、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 4 切通遺跡 (1/5,000)



PL. 1 調査地遠景（東から）

## H1-2

遺跡名：周知外 屋形原地区

調査地：上峰町大字堤字三本黒木

工事内容：工場建設

工事面積：4,928m<sup>2</sup>

調査面積：570m<sup>2</sup>

調査時期：平成2年3月下旬

立地と環境：調査対象地区は上峰町大字堤字三

本黒木に所在し、鎮西山南麓が丘

陵部へ移行する一尾根上標高

60m～70m付近に位置しており、蜜柑畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 5 周知外 屋形原地区 (1/5,000)



PL. 2 Na6試掘溝



## IV. 平成2年度の調査

Tab. 2 平成2年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	三上遺跡	上峰町大学坊所字三上 3026番地1, 3028番地1	株式会社不動産	宅地造成	1,899	240	平成2年5月28日	遺構、遺物とともに検出されなかった。	工事実施。	
2	外記遺跡	上峰町大学坊所字七本谷 1580番地, 1581番地4 1581番地11, 1581番地14 1604番地	有限会社前田建設	宅地造成	2,698	200	平成2年6月5日 平成2年6月7日	遺構、遺物とともに検出されなかった。	工事実施。	
3	坊所二本谷遺跡	上峰町大学坊所字二本谷 2495番地11, 2496番地27 2495番地28, 2485番地40 2495番地75	個人	遊技場建設	4,699	144	平成2年8月16日	遺構、遺物とともに検出されなかった。	工事実施。	
4	周知外	上峰町大学前牟田字西本松 1922番地1, 1923番地3 1933番地2, 1934番地2 1935番地4, 1934番地口 1936番地2, 1936番地口	松尾建設株式会社	作業所建設	2,259	240	平成3年3月12日	遺構、遺物とともに検出されなかった。	工事実施予定。	

# 上峰町全図



凡例	
○	○
●	●
△	△



Fig. 6 平成 2 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

## H2-1

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：宅地造成

工事面積：1,899m<sup>2</sup>

調査面積：240m<sup>2</sup>

調査時期：平成2年5月28日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、

西峰に所在し、町の南西部目達原

丘陵上に位置する縄文時代から奈

良・平安時代の集落遺跡である。

本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戦時の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵のはば中央標高12m付近に位置しており、畠として利

用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 7 三上遺跡 (1/5,000)



PL. 3 調査地全景 (北東から)

## H2-2

遺跡名：外記遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：宅地造成

工事面積：2,698m<sup>2</sup>

調査面積：200m<sup>2</sup>

調査時期：平成2年6月5、7日

立地と環境：外記遺跡は上峰町大字坊所字七本

谷に所在し、町のほぼ中央部都境

地区から下津毛地区へと延びる下

津毛丘陵とその西側の目達原丘陵

にまたがる集落遺跡である。調査対象地区は外記溜池西側の目達原丘陵東斜面の標高19m付近に位置している。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 8 外記遺跡 (1/5,000)



PL. 4 N01試掘溝

## H2-3

遺跡名：坊所二本谷遺跡  
調査地：上峰町大字坊所字二本谷

工事内容：遊技場建設

工事面積：4,699m<sup>2</sup>

調査面積：144m<sup>2</sup>

調査時期：平成2年8月16日

立地と環境：坊所二本谷遺跡は上峰町大字坊所

字二本谷に所在し、町のほぼ中央

部井手口丘陵の西側を占有する集  
落遺跡である。調査対象地区は県

道三田川北茂安線北側井手口丘陵西斜面の標高15m付近に位置しており、精錬会社の社屋、工場  
として使用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 9 坊所二本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 5 No.3試掘溝

## H2-4

遺跡名：周知外 上米多地区

調査地：上峰町大字前牟田字四本松

工事内容：作業所建設

工事面積：2,259m<sup>2</sup>

調査面積：240m<sup>2</sup>

調査時期：平成3年3月12日

立地と環境：調査対象地区は町南西部上米多地区に所在している。

米多集落付近で平野に没する目連原丘陵南東部

の段丘崖直下の沖積地標高4m付

近に位置しており、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 10 周知外 上米多地区 (1/5,000)



PL. 6 作業状況



## V. 平成3年度の調査

Tab. 3 平成3年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	江迎塚跡	上峰町大字江迎字一本柳 1232番地、1233番地、 1234番地、1237番地1 1237番地2、1238番地1、 1238番地2、1239番地、 1240番地、1241番地、 1242番地、1243番地、 1244番地、1245番地1 1246番地1、1250番地	上峰町	公園整備	1,786	188	平成3年4月10日 平成3年4月12日 平成3年4月15日 平成3年4月16日 平成3年4月17日 平成3年4月22日	中世の建物跡、土壌等 が検出された。 中世土器、船軸青磁 碗、白磁皿などが出土 した。	遺構は盛土保存 し、工事実施中。	
2	坊所一本谷遺跡	上峰町大字坊所字七本谷 1587番地1、1589番地1 1584番地2・1585番地 合併 1584番地・1585番地 合併-2	株式会社大日住宅	宅地造成	1,367	120	平成3年5月16日	弥生時代の竪穴住居 跡などが検出された。 弥生式土器片、氣泡器 片等が出土した。	本調査実施にむ けて調整中。	
3	坊所城跡	上峰町大字坊所字堀寺 827番地1、837番地1	日山不動産株式会社	宅地造成	2,977	284	平成3年5月28日 平成3年5月30日 平成3年7月10日 平成3年7月11日 平成3年7月12日 平成3年7月17日 平成3年7月18日 平成3年7月22日	中世の土塁、土壌等が 検出された。 中世土器片等が出土し た。	本調査実施。	
4	星形原古墳群	上峰町大字堤字二本松 3080番地6	興国運輸株式会社	倉庫建設	5,704	156	平成3年9月7日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
5	三上遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2953番地、2954番地、 2955番地	龍生園不動産	宅地造成	2,973	36	平成3年12月13日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
6	新立古墳群	上峰町大字堤字谷渡 1652番地2、1652番地3、 1652番地6、1652番地7、 1652番地10、1652番地16	個人	新地整備	6,047	72	平成3年12月19日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	整地実施。	



Fig. 11 平成3年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

### H3-1

遺跡名：江迎城跡

調査地：上峰町大字江迎字一本柳

工事内容：公園整備

工事面積：1,786m<sup>2</sup>

調査面積：188m<sup>2</sup>

調査時期：平成3年4月10、12、15～17、22日

立地と環境：江迎城跡は上峰町大字江迎字一本

柳の所在する中世城館跡で、町の

南東部江迎地区の沖積地標高4m

付近に位置し、「中の島」とその周

囲の環境が比較的良好な状態で残っており、一帯は畠として利用されていた。調査は、この江迎城の中心「中の島」一帯の親水公園整備に先立ち実施した。

遺構と遺物：中世の建物跡、土壙などが検出され、中世土器片とともに船載青磁碗、白磁皿などが出土した。

調査後措置：検出された遺構は工事の影響が及ばないよう盛土保存し、工事実施。

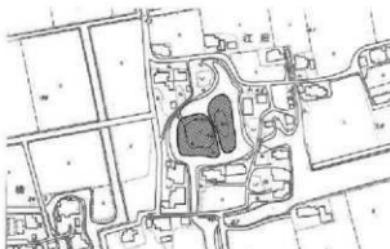


Fig. 12 江迎城跡 (1/5,000)



Pl. 7 遺構検出状況

### H3-2

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：宅地造成

工事面積：1,367m<sup>2</sup>

調査面積：120m<sup>2</sup>

調査時期：平成3年5月16日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は上峰町大字坊所

字一本谷、七本谷に所在し、町の

ほぼ中央部郡境地区の下津毛丘陵

とその西側の目達原丘陵の基部一

帯に広がる古墳時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。調査対象地区は外記溜池北方の目達原丘陵東斜面の標高22m付近に位置しており、畑として利用されていた。

遺構と遺物：弥生時代中期の竪穴式住居跡、土壙などが検出され、弥生式土器片、須恵器片などが出土した。

調査後措置：開発主体者側の事情により開発自体が中止された。



Fig. 13 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 8 遺構検出状況

### H3-3

遺跡名：坊所城跡

調査地：上峰町大字坊所字櫻寺

工事内容：宅地造成

工事面積：2,977m<sup>2</sup>

調査面積：284m<sup>2</sup>

調査時期：平成3年5月28、30日、7月10～12、

17、18、22日

立地と環境：坊所城跡は上峰町大字坊所字櫻寺

に所在する中世城館跡で、町の中南部上坊所集落が立地する坊所丘

陵の中央部標高10m付近に位置している。現在も一帯には、土壘や区画溝などが比較的良好な状態で残っている。調査対象地区はこの坊所城の中央部にあたり「カンジャ屋敷」などのしこ名も残っている。

造構と遺物：中世城館に伴う土壘、溝跡、建物跡、土壤などが検出され、中世土器片などが出土地した。

調査後措置：既存町道から宅地までの進入路部分については本調査を実施、宅地部分は盛土保存し、工事実施。

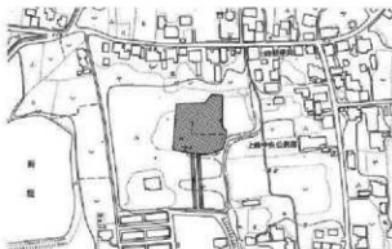


Fig. 14 坊所城跡 (1/5,000)



PL. 9 造構検出状況

### H3-4

遺跡名：屋形原古墳群

調査地：上峰町大字堤字二本松

工事内容：倉庫建設

工事面積：5,704m<sup>2</sup>

調査面積：156m<sup>2</sup>

調査時期：平成3年9月7日

立地と環境：屋形原古墳群は上峰町大字堤字二

本松に所在する小円墳を主体とする

古墳時代後期の古墳群で、上峰

町と東脊振村との境界付近から現

屋形原集落の南方へ延びる屋形原丘陵北部の標高40m～70m付近の丘陵上に位置している。調査

対象地区は屋形原集落北方の工場北側の丘陵尾根部分標高50m～65m付近に位置しており、蜜柑

畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

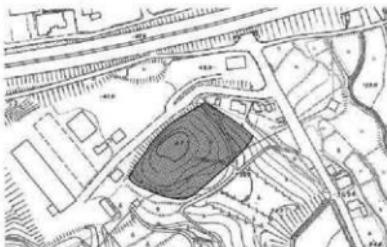


Fig. 15 屋形原古墳群 (1/5,000)



PL. 10 作業状況

### H3-5

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：宅地造成

工事面積：2,973m<sup>2</sup>

調査面積：36m<sup>2</sup>

調査時期：平成3年12月13日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、

西峰に所在し、町の南西部目達原

丘陵上に位置する縄文時代から奈

良・平安時代の集落遺跡である。

本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戦時の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵のはば中央標高12m付近に位置しており、畠として利  
用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 16 三上遺跡 (1/5,000)



PL. 11 作業状況

### H3-6

遺跡名：新立古墳群

調査地：上峰町大字堤字谷渡

工事内容：耕地整備

工事面積：6,047m<sup>2</sup>

調査面積：72m<sup>2</sup>

調査時期：平成3年12月19日

立地と環境：新立古墳群は上峰町大字堤字谷渡

に所在する小円墳を主体とする古

墳時代後期の古墳群で、町の北部

の鎮西山南麓から堤地区八藤へ延

びる八藤丘陵の高位段丘面標高35m～65m付近の尾根上に位置している。調査対象地区はこの高

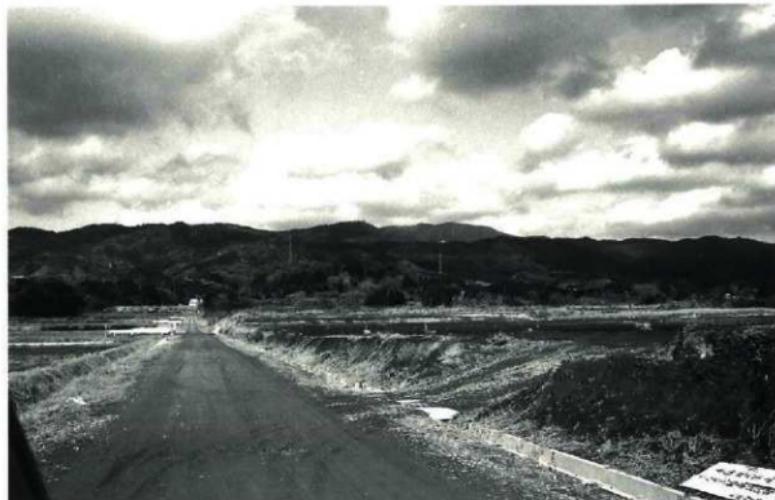
位段丘面南部の斜面に位置しており、蜜柑畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物とともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 17 新立古墳群 (1/5,000)



PL. 12 調査地遠景（南から）



## VI. 平成4年度の調査

Tab. 4 平成4年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原団者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	龍形原古墳群(1)	上峰町大字坊宇二本谷 3080番地5, 3080番地12, 3080番地19, 3080番地67, 3080番地68, 3080番地73 3080番地79, 3080番地103, 3080番地104, 3080番地105, 3080番地106, 3114番地 3115番地	大塚倉庫株式会社 福岡支店	倉庫建設	17,528	375	平成4年4月27日 平成4年4月28日 平成4年6月11日	円墳1基(後期古墳) が検出された。	本調査実施後工事実施中。	
2	三上遺跡(1)	上峰町大字坊宇西峰 2766番地1, 2766番地2, 2766番地3, 2767番地1	株式会社 住宅ケンコウ社	宅地造成	1,919	157	平成4年4月30日	土壌、溝状構造が検出 された。	本調査実施後工事実施。	
3	船石遺跡	上峰町大字坊宇三本松 654番地1, 654番地2, 654番地3	個人	宅地造成	910	120	平成4年6月15日 平成4年7月14日	堅穴式住居址、土礫等 が検出された。	遺構は盛土保存し、工事実施。	
4	樺寺遺跡(1)	上峰町大字坊宇寺樺寺 606番地, 625番地2	上峰町	『ふるさと学館』建設	1,716	236	平成4年6月24日	堅穴式住居址、土礫等 が検出された。	本調査実施後工事実施。	
5	黒形原古墳群(2)	上峰町大字堤宇一本黒木 3965番地1, 3965番地5, 3965番地6, 3965番地7, 3966番地1, 3966番地3	興國運輸株式会社	港入道路新設	759	60	平成4年7月7日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
6	米多城跡	上峰町大字前半田 字七半田 429番地1 字館 703番地16	上峰町	農業集落排水施設建設	820	60	平成4年10月5日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
7	周知外(1)	上峰町大字坊宇上坊所 424番地4	個人	郵便局建設	333	24	平成4年11月5日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
8	四本谷遺跡	上峰町大字堤宇四本谷 1903番地26, 1903番地400, 1903番地401	株式会社 美国造園	工場建設	5,521	114	平成5年1月11日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
9	三上遺跡(2)	上峰町大字坊宇三上 3278番地6, 3279番地3, 3280番地6, 3281番地1	有限会社一丸商店	工場建設	1,415	120	平成5年2月2日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
10	樺寺遺跡(2)	上峰町大字坊宇寺樺寺 651番地	上峰町	小学校増改築	566	24	平成5年3月25日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施予定。	
11	周知外(2)	上峰町大字坊宇上坊所 319番地3, 319番地4, 319番地5, 319番地6	上峰町	公民館及び改善センターの建設	5,978	180	平成5年3月26日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施予定。	



Fig. 18 平成4年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

#### H4-1

遺跡名：屋形原古墳群(1)

調査地：上峰町大字堤字二本松

工事内容：倉庫建設

工事面積：17,528m<sup>2</sup>

調査面積：375m<sup>2</sup>

調査時期：平成4年4月27、28日

6月11日

立地と環境：屋形原古墳群は上峰町大字堤字二

本松に所在する小円墳を主体とする  
古墳時代後期の古墳群で、上峰

町と東脊振村との境界付近から現屋形原集落の南方へ延びる屋形原丘陵北部の標高40m～70m付  
近の丘陵上に位置している。調査対象地区は屋形原集落北方の工場北側丘陵斜面標高40m～55m付  
近に位置しており、蜜柑畑として利用されていた。

遺構と遺物：開口した小円墳1基を確認。遺物は検出されなかった。

調査後措置：確認された円墳1基について本調査を実施後、工事実施。



Fig. 19 屋形原古墳群(1) (1/5,000)



PL. 13 古墳開口部確認状況（南から）

#### H4-2

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：宅地造成

工事面積：1,919m<sup>2</sup>

調査面積：157m<sup>2</sup>

調査時期：平成4年4月30日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、

西峰に所在し、町の南西部目達原

丘陵上に位置する縄文時代から奈

良・平安時代の集落遺跡である。

本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の東部標高10m付近に位置しており、畠として利用されていた。

遺構と遺物：土壙、溝跡などが検出された。遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig. 20 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL. 14 作業状況

#### H4-3

遺跡名：船石遺跡

調査地：上峰町大字堤字三本杉

工事内容：宅地造成

工事面積：910m<sup>2</sup>

調査面積：120m<sup>2</sup>

調査時期：平成4年6月15日、7月14日

立地と環境：船石遺跡は上峰町大字堤字三本杉、

四本杉、一本谷、二本谷一帯に所

在し、町の中北部現船石集落が立

地する船石丘陵上を占有する縄文

時代から中世に及ぶ集落と墳墓からなる複合遺跡である。調査対象地区はこの船石丘陵東側斜面  
標高25m付近に位置しており、宅地として利用されていた。

造構と遺物：弥生時代の竪穴式住居跡、土壙などが検出された。遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構については盛土保存し、工事実施。



Fig. 21 船石遺跡 (1/5,000)



Pl. 15 遺構検出状況

#### H4-4

遺跡名：櫻寺遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字櫻寺

工事内容：「ふるさと学館」建設

工事面積：1,716m<sup>2</sup>

調査面積：236m<sup>2</sup>

調査時期：平成4年6月24日

立地と環境：櫻寺遺跡は上峰町大字坊所字櫻寺

に所在する弥生時代から中世に及

ぶ集落遺跡で、町中南部の現上坊

所集落が占有する坊所丘陵上に立

地している。調査対象地区は坊所丘陵の北東部標高10m付近に位置しており、平成元年10月まで  
は「上峰村役場庁舎」として利用されていた。

遺構と遺物：弥生時代、奈良時代の堅穴式住居跡、土壙、中世の溝跡などが検出され、弥生式土器片、須恵器  
片、土師器片などが検出された。

調査後措置：建物建設部分を中心に本調査を実施後、工事実施。



Fig. 22 櫻寺遺跡(1) (1/5,000)



PL. 16 遺構検出状況

#### H4-5

遺跡名：屋形原古墳群(2)

調査地：上峰町大字堤字一本黒木

工事内容：進入道路建設

工事面積：759m<sup>2</sup>

調査面積：60m<sup>2</sup>

調査時期：平成4年7月7日

立地と環境：屋形原古墳群は上峰町大字堤字二

本松、一本黒木に所在する小円墳

を主体とする古墳時代後期の古墳  
群で、上峰町と東脊振村との境界

付近から現屋形原集落の南方へ延びる屋形原丘陵北部の標高40m～70m付近に位置している。調査対象地区は屋形原集落北方の県道西側丘陵東側斜面標高40m付近に位置しており、畑として利  
用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 23 屋形原古墳群(2) (1/5,000)



PL. 17 調査地全景（南東から）

#### H4-6

遺跡名：米多城跡

調査地：上峰町大字前半田字七半田、館

工事内容：農業集落排水施設建設

工事面積：820m<sup>2</sup>

調査面積：60m<sup>2</sup>

調査時期：平成4年10月5日

立地と環境：米多城跡は、上峰町大字前半田字

七半田、星敷の坪、館、姥井鶴一

帶に所在する中世城館跡で、町南

西部の目達原丘陵南端部が沖積地

に没する現米多集落南部標高3m付近に位置している。調査対象地区は米多城跡の東部の一画にあたり、旧状は環濠がめぐる島屋敷で、畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 24 米多城跡 (1/5,000)



PL. 18 作業状況

#### H4-7

遺跡名：周知外(1) 上坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：郵便局建設

工事面積：333m<sup>2</sup>

調査面積：24m<sup>2</sup>

調査時期：平成4年11月5日

立地と環境：調査対象地区は町の中南部の坊所

地区に発達する坊所丘陵東側の切

通川の氾濫原標高6m付近に位置

しており、水田として利用されて

いた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 25 周知外(1) 上坊所地区 (1/5,000)



PL. 19 作業状況

#### H4-8

遺跡名：四本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：工場建設

工事面積：5,521m<sup>2</sup>

調査面積：114m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年1月11日

立地と環境：四本谷遺跡は上峰町大字堤字四本

谷に所在する弥生時代の墳墓を中心とした遺跡で、二塙山丘陵南部

の標高25m～38m付近に位置して

いる。調査対象地区は遺跡の西部、三田川町との境界近くの標高25m～30m付近の谷部に位置しており、現況は荒地であった。

遺構と遺物：遺構・遺物とともに検出されなかった

調査後措置：工事実施。

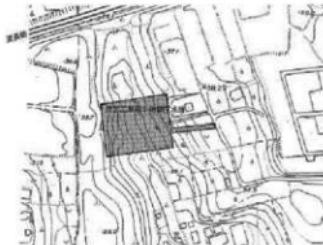


Fig. 26 四本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 20 No.4 試掘溝

#### H4-9

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：工場建設

工事面積：1,415m<sup>2</sup>

調査面積：120m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年2月2日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、

西峰に所在し、町の南西部目達原

丘陵上に位置する縄文時代から奈

良・平安時代の集落遺跡である。

本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の北部標高16m付近に位置しており、畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 27 三上遺跡(2) (1/5,000)



PL. 21 Nal試掘溝

#### H4-10

遺跡名：櫻寺遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字櫻寺

工事内容：小学校増築

工事面積：566m<sup>2</sup>

調査面積：24m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年3月25日

立地と環境：櫻寺遺跡は上峰町大字坊所字櫻寺

に所在する弥生時代から中世に及

ぶ集落遺跡で、町中南部の現上坊

所集落が占有する坊所丘陵上に立

地している。調査対象地区は坊所丘陵の東部標高9m付近に位置しており、小学校の校庭として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 28 櫻寺遺跡(2) (1/5,000)



PL. 22 作業状況

#### H4-11

遺跡名：周知外(2) 上坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字上坊所

工事内容：公民館及び改善センター建設

工事面積：5,978m<sup>2</sup>

調査面積：180m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年3月26日

立地と環境：調査対象地区は町の中南部の坊所

地区に発達する坊所丘陵南東側の

切通川の氾濫原標高6m付近に位

置しており、水田として利用され

ていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 29 周知外(2) 上坊所地区 (1/5,000)



PL. 23 作業状況

## Ⅷ. 平成5年度の調査

Tab. 5 平成5年度 町内造法確認調査一覧表

No.	地名	所在	原因者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	谷底古墳群	上峰町大字堤字谷底 1651番地80, 1651番地81, 1651番地164	吉野産業有限会社	事務所及び資材販売建 設	2,988	130	平成5年5月11日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
2	周知外①	上峰町大字堤字三本柳 3817番地, 3818番地, 3819番地, 3820番地1, 3821番地, 3822番地1, 3823番地3, 3825番地3	個人	倉庫建設	4,515	300	平成5年6月24日 平成5年6月25日 平成5年6月29日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
3	三上遺跡	上峰町大字坊所字三上 3039番地1, 3040番地1, 3041番地1, 3041番地2, 3042番地1, 3042番地2, 3083番地1, 3084番地1, 3085番地, 3093番地, 3094番地, 3095番地	株式会社中野建設	宅地造成	9,238	900	平成5年7月26日 平成5年7月27日 平成5年7月28日 平成5年7月29日	遺構、遺物ともに検出 されなかった。	工事実施。	
4	坊所一本谷遺跡	上峰町大字坊所字七本谷 1538番地1, 1539番地4, 1539番地口, 1544番地2, 1544番地3, 1545番地, 1546番地, 1547番地1, 1547番地2, 1548番地, 1549番地1, 1549番地2, 1550番地イ, 1550番地2-2, 1550番地5, 1550番地7, 1550番地8, 1550番地9, 1550番地14, 1550番地15, 1550番地16, 1550番地17, 1550番地22, 1550番地24, 1550番地25, 1551番地第1, 1551番地第2, 1552番地, 1553番地, 1554番地, 1555番地, 1556番地, 1557番地1, 1558番地2, 1559番地4, 1570番地22, 1570番地26, 1570番地27, 1570番地66, 1570番地83, 1570番地84, 1583番地4, 1583番地10, 1583番地11, 字二本谷 2510番地 字一本谷 2514番地9, 2514番地10, 2514番地11	株式会社九州ニティ	大規模小売店舗建設	63,110	2,455	平成5年8月4日 平成5年8月5日 平成5年8月6日 平成5年8月9日 平成5年8月11日 平成5年8月25日 平成5年8月30日 平成5年8月31日 平成5年9月1日 平成5年10月13日 平成5年10月14日 平成5年10月15日 平成5年10月19日 平成5年11月8日	平安時代堅穴住居跡等 が検出された。 遺構が検出された部分について 本調査を実施中。		

Tab. 5 平成5年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.2

No.	遺跡名	所在地	原 因 者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
5	周知外(2)	上峰町大字坊所字下條毛 204番地、235番地	上峰町	町立中学校体育館建設	5,969	80	平成5年8月24日	遺構、遺物とともに検出されなかった。	工事実施。	
6	周知外(3)	上峰町大字坊所字下坊所 1743番地1、1743番地4、 1743番地5	大同不動産	宅地造成	3,188	50	平成5年9月17日	遺構、遺物とともに検出されなかった。	工事実施。	
7	船石遺跡	上峰町大字坊所字二本谷 1386番地、1387番地	個人	宅地造成	1,761	150	平成5年11月18日 平成5年11月19日	弥生時代の堅穴住居跡が検出された。	遺構に工事の影響が及ばないよう調整の上、工事実施。	
8	周知外(4)	上峰町大字坊所字二本松 245番地1	大同不動産	宅地造成	970	60	平成6年1月21日	遺構、遺物とともに検出されなかった。	工事実施。	

# 上峰町全図



凡例



Fig. 30 平成5年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

## H5-1

遺跡名：谷渡古墳群

調査地：上峰町大字堤字谷渡

工事内容：事務所・資材置場建設

工事面積：2,988m<sup>2</sup>

調査面積：130m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年5月11日

立地と環境：谷渡古墳群は上峰町大字堤字谷渡

に所在する小円墳を主体とする古  
墳時代後期の古墳群で、町の北東  
部中原町との境界付近一帯の丘陵

上標高40m～80m付近に広がりをもっている。調査対象地区は谷渡古墳群北端の丘陵尾根上標高  
70m～80m付近に位置しており、蜜柑畑として開かれ現況は荒野地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

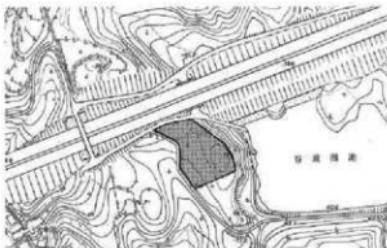


Fig. 31 谷渡古墳群 (1/5,000)



PL. 24 作業状況

## H5-2

遺跡名：周知外(1) 屋形原地区

調査地：上峰町大字堤字三本柳

工事内容：倉庫建設

工事面積：4,515m<sup>2</sup>

調査面積：300m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年6月24、25、29日

立地と環境：調査対象地区は上峰町大字堤字三

本柳に所在し、町の北部屋形原地

区の字二本柳から字三本柳へ南西

に延びる丘陵の先端35m付近に位

置しており、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 32 周知外(1) 屋形原地区 (1/5,000)



PL. 25 Na7試掘溝

### H5-3

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：宅地造成

工事面積：9,238m<sup>2</sup>

調査面積：900m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年7月26～29日

立地と環境：三上遺跡は上峰町大字坊所字三上、

西峰に所在し、町の南西部目達原

丘陵上に位置する縄文時代から奈

良・平安時代の集落遺跡である。

本町と三田川町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されている。調査対象地区はこの目達原丘陵の北西部標高14m付近に位置しており、宅地及び水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 33 三上遺跡 (1/5,000)



PL. 26 Miyanoshita Site Excavation Trench

#### H5-4

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字一本谷、七本谷

工事内容：大規模小売店舗建設

工事面積：63,110m<sup>2</sup>

調査面積：2,455m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年8月4～6、9、11、25、30、31日、9月1日、10月13～15、19日、11月8日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は上峰町大字坊所字一本谷、七本谷に所在し、町のほぼ中央部郡境地区の下津毛丘陵とその西側の目達原丘陵の基部一帯に広がる古墳時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。

調査対象地区は外記溜池北方一帯の標高20m付近に位置している。自動車学校及び畠として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の竪穴式住居跡、建物跡などが検出され、須恵器片、土師器片などが出土した。

調査後措置：遺構が検出された部分について本調査を実施後、工事実施。

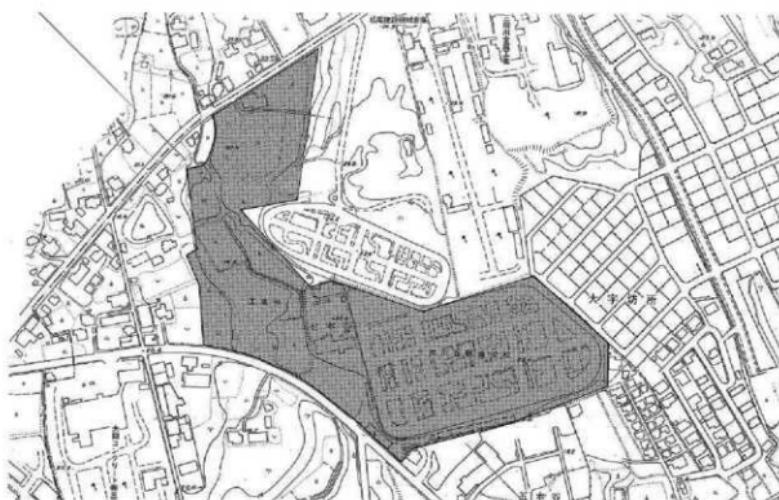


Fig. 34 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 27 作業状況



PL. 28 遺構検出状況

##### H5-5

遺跡名：周知外(2) 下津毛地区

調査地：上峰町大字坊所字下津毛

工事内容：町立中学校体育馆建設

工事面積：5,969m<sup>2</sup>

調査面積：80m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年8月24日

立地と環境：調査対象地区は上峰町大字坊所字

下津毛に所在し、町中南部下津毛

地区的下津毛丘陵と目連原丘陵を

分かつ谷底平野部標高7m付近に

位置しており、水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物とともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 35 周知外(2) 下津毛地区 (1/5,000)



PL. 29 作業状況

H5-6

遺跡名：周知外(3) 下坊所地区

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：宅地造成

工事面積：3,188m<sup>2</sup>

調査面積：50m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年9月17日

立地と環境：調査対象地区は町の中南部の坊所

地区に発達する坊所丘陵南東側の

切通川の氾濫原標高5m付近に位

置しており、水田として利用され

ていた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。

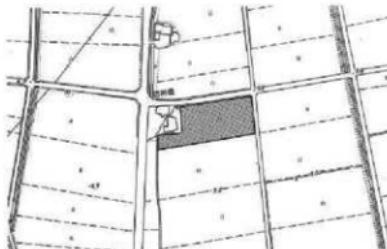


Fig. 36 周知外(3) 下坊所地区 (1/5,000)



PL. 30 作業状況

## H5-7

遺跡名：船石遺跡

調査地：上峰町大字堤字二本谷

工事内容：宅地造成

工事面積：1,761m<sup>2</sup>

調査面積：150m<sup>2</sup>

調査時期：平成5年11月18、19日

立地と環境：船石遺跡は上峰町大字堤字三本杉、

四本杉、一本谷、二本谷一帯に所

在し、町の中北部現船石集落が立

地する船石丘陵上を占有する縄文

時代から中世に及ぶ集落と墳墓からなる複合遺跡である。調査対象地区はこの船石丘陵北端部標高30m付近に位置しており、荒地となっていた。

遺構と遺物：弥生時代の竪穴式住居跡などが検出された。遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された住居跡に工事の影響が及ばないよう調整を行った後、工事実施。



Fig. 37 船石遺跡 (1/5,000)



PL. 31 遺構検出状況

## H5-8

遺 跡 名：周知外(4) 下坊所地区

調 査 地：上峰町大字坊所字二本松

工事内容：宅地造成

工事面積：970m<sup>2</sup>

調査面積：60m<sup>2</sup>

調査時期：平成6年1月21日

立地と環境：調査対象地区は町の中南部の坊所

地区に発達する坊所丘陵の南東に

広がる沖積地標高5m付近に位置

しており、水田として利用されて

いた。

遺構と遺物：遺構・遺物ともに検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 38 周知外(4) 下坊所地区 (1/5,000)



PL. 32 作業状況

## 報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさⅠ						
書名	上峰町内遺跡確認調査Ⅰ						
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書—平成元年度～平成5年度—						
卷次							
シリーズ名	上峰町文化財報告書						
シリーズ番号	第32集						
編著者名	原田 大介						
編集機関	上峰町教育委員会						
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888						
発行年月日	2010年3月26日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積m <sup>2</sup>	調査原因
ちようさいいせき 町内遺跡	佐賀県三養基郡 かみみねきゅうぐん 上峰町一円	41345			1989.4 1994.3		町内における各種開発行為
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
町内遺跡	集落跡 墳墓跡 古墳 中世城館跡	弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴式住居跡 掘立柱建物跡 溝跡・土壙 土塁	弥生式土器 土師器・須恵器 中世土器・船載陶磁器			

上峰町文化財報告書第32集

## 上峰町内遺跡確認調査Ⅰ

平成22年3月10日 印刷  
平成22年3月26日 発行

編集 上峰町教育委員会  
発行 佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印刷 大同印刷株式会社  
佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20





